大阪錦繪新聞
第八十三号
なにしあの人角の芝居の大舞台・楷の火まあ〻〻にて・
牡丹の花の火うは松の・玉の振り毛のてけさにちゑりとうりし
火ぐるまこ・ゐりひゞくる大一座・見物客ハ表木戸迄・張り
裂ん許大入の・群集ハ同ト・裏木戸ハ・消防方が多人數
駆付たる八川付の・右来・拂多の人・氣を〻〻の事・
あんこと・兼て用意ごと・ゝ・介舞臺ハ火の玉も・
恐きぬ乳姓の・膽玉・さへ〻〻火とびもミ・消して・
残りなく・獅子の呼化事も・目出ゝく
四月十九日・たて〻・嚏子の・
だーて・評判〻も・藝に・親玉と
多見藏と・答・聲・滿るえが・中に・或る・贔屓より
見・無・として・金五十円・贈し・竹木君太夫が・扇ゟ
（火水とも・炎まぬ獅子の・勢ひ・三国無双・あ〻ひ・膽玉）
と・祝〻〻・ゟ・ハ・ゟ・ゟ・獅子・嬉〻〻と・
カ・辛円・を・其・侭・ゟ・君・太・夫（遣ハ也）
浪花・恵・
笹木芳瀧述
八尾壽板